

令和5年度予算編成方針を次のとおり定める。

令和4年10月25日

登別市長 小笠原 春 一

令和5年度予算編成方針

我が国の経済は、資源価格上昇の影響などを受けつつも、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで、持ち直しており、企業収益は全体として高水準で推移するとともに、雇用・所得環境は緩やかに改善しており、個人消費についても、緩やかに増加しています。

また、経済活動の先行きについては、当面の間、引き続き資源価格上昇の影響を受けるものの、感染症の影響が和らぐもとで、外需の増加や緩和的な金融環境、政府の経済対策の効果にも支えられ回復していくとみられ、その後は、所得から支出への前向きな循環メカニズムが経済全体で徐々に強まっていくなかで、経済はさらに成長を続けると予想されています。

このような経済情勢の下、国は、本年6月、「経済財政運営と改革の基本方針2022」を閣議決定し、新型コロナウイルス感染症や、ロシアによるウクライナ侵略、気候変動問題など、我が国を取り巻く国際情勢の変化と社会課題の解決に向けて、官民が共同して重点的な投資と規制・制度改革を実施することにより、課題解決と経済成長を同時に実現しながら、経済社会の構造を変化に対してより強靱で持続可能なものに変革する「新しい資本主義」を起動し、人的資本をはじめGX、DXなど、新しい資本主義に向けた重点投資を行うことにより、供給力強化と持続的な成長に向けた基盤を構築していくほか、民需中心の景気回復を着実に実現することで、成長と分配の好循環に向けた動きを確かなものにし、経済・財政一体改革を着実に推進する考えを示しました。

こうした中で始まった国の令和5年度当初予算編成の概算要求においては、社会保障関係費の増加が見込まれる中、地方団体が、上記政策のほか新型コロナウイルス感染症対策や活力ある地域づくりの推進、防災・減災などの重点課題に対応しつつ、行政サービスを安定的に提供できるよう、「新経済・財政再

生計画」等を踏まえ、地方の安定的な財政運営に必要となる一般財源の総額について、令和4年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保する考えが示され、地方交付税については、極めて厳しい地方財政の現状等を踏まえ、本来の役割である財源調整機能と財源保障機能が適切に発揮されるよう、18.2兆円の要求がなされたところです。

しかしながら、この概算要求額は仮置きの数値であり、経済情勢の推移、税制改正の内容、国の予算編成の動向等を踏まえ、地方財政の状況等について検討を加えたのち、予算編成過程で調整される可能性が多分にあることから、その推移を注視していかなければなりません。

一方、当市財政は、令和3年度決算において、単年度収支は1億円の黒字となり、財政調整基金に6億円、北海道市町村備荒資金組合超過納付金に1.5億円、計7.5億円の原資積立を行ったことから、これらを考慮した実質的な単年度収支は、令和2年度決算に続き2年連続で大きな黒字となる8.5億円の黒字となりました。

この結果、令和元年度末に2.5億円まで減少した財政調整基金の残高は、令和3年度末で11.6億円と10億円台に達したほか、財源調整用基金等（財政調整基金、減債基金（ルール外）、北海道市町村備荒資金組合超過納付金）については17.3億円となるなど、ここ数年間取り組んできた行財政改革の成果もあり、一時の厳しい財政状況は脱し、安定的な財政運営が可能となる水準まで回復したものと考えられます。

しかし、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵略に起因する原油価格・物価高騰は、市民生活はもとより、行財政運営にも大きな影響が及んでおり、特に、市役所本庁舎の建設やクリンクルセンターの更新など、大型事業の実施に係る建設資材の高騰により当初計画していた事業費の見直しを余儀なくされることが予想され、今後大規模な投資を予定している当市にとっては、その影響の大きさ如何により再び厳しい財政運営を強いられることも推察されることから、将来の財政負担に備え、財源の確保や経費削減の取組みをより一層推進するとともに、前例に囚われない新たな発想による見直しにも積極的に取り組み、引き続き財政の健全化を図ることが必要となります。

こうした当市の現状を踏まえ、令和5年度の行政運営にあたっては、総合計画第3期基本計画における第3次実施計画4年間の2年目として各施策の取組みを着実に進めていく重要な年度であることから、それら施策の実現に資する事業に重点的に予算を配分するとともに、デジタルファーストやゼロカーボンの推進などに代表される新しい時代に繋がる取組みも意識した予算の編成が求められています。

以上の状況認識に立ち、令和5年度予算を次により編成するものとします。

記

1 総合計画第3期基本計画と連動した施策の推進

総合計画における市が目指す将来像の実現に向け、先に示した「重要施策展開の基本的な方向性（市政執行方針フレーム）」を踏まえ、次のとおり予算編成を行うこととします。

また、事業選択にあたっては、持続可能な開発目標（SDGs）で目標とされた17の目標との関連性も意識しながら作業を進めていきます。

（1）新しい時代へ繋ぐ、着実に前進するまちづくり

近年、日本国内では急速なデジタル化が進んでおり、行政においても、人口減少・少子高齢化対策や、インフラの老朽化などをはじめとした地域課題に対応し、ポストコロナ時代においても持続的に市民サービスを提供していくほか、職員の業務の効率化を図るため、AI・ICT等の先端技術やデータ活用などのDXを推進していくことが求められています。

また、地球温暖化が要因とみられる気候変動の影響により、国内に限らず世界各地で猛暑や大雨などの異常気象による大規模な災害が多発しており、その対策は喫緊の課題となっていることから、国に歩調を合わせ、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」への挑戦を表明しました。その実現に向け、自家消費型の太陽光発電設備導入や、新築住宅のZEHの普及に対する支援、公共施設のLED化など、ゼロカーボンに向けた取組みを加速化させていくことが必要となります。

これらの取組みを着実に進めるため、新しい時代へ繋ぐ、着実に前進するまちづくりに資する事業に重点的に予算措置を行うこととします。

（2）新しい時代に繋がる、誰もが充実した生活を送られるまちづくり

未来を担う子どもたちの健やかな成長を促すためには、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援により、妊娠や出産、子育てなどの不安を解消するほか、医療費の助成拡大による保護者の負担軽減、民間事業者への財政的支援による認定こども園の整備など、きめ細やかに子育て支援策を講じることで、安心して生み・育てていくことができる環境の充実を進めていくことが必要となります。

また、少子高齢化が加速する中、住み慣れた地域内で互いが助け合い生活していく体制を整え、いつまでもそこに暮らしていくことが出来るよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進することが重要となります。

これらの取組みを着実に進めるため、誰もが充実した生活を送られるまちづ

くりに資する事業に重点的な予算措置を行うこととします。

(3) 新しい時代に繋げる、活気にあふれ賑わいのあるまちづくり

令和5年3月、登別観光の新たな拠点である登別市観光交流センター「ヌプル」が開設されます。これを大きな契機とし、登別地区の更なる賑わい創出や活性化、受入環境の向上に向け、JR登別駅エレベーターの設置に向けた取り組みをはじめとした周辺地域のバリアフリー化を推進していくことが重要です。

また、ポストコロナ時代の到来とともに多様な働き方が可能となり、企業や個人の地方への関心の高まりが増していることを好機と捉え、カルルス地区を中心に進める企業研修型ワーケーションと日本工学院北海道専門学校サテライトオフィス en の利用促進を効果的に連動し、観光誘客、企業誘致を積極的に進めていくことが求められています。

そのほか、活気あふれるまちづくりに向け、民間のノウハウや新たな視点を持っている地域おこし協力隊・地域活性化起業人等の外部人材を積極的に活用し、関係人口の創出や地域力の維持・強化を図ることが必要です。

これらの取り組みを着実に進めるため、活気にあふれ賑わいのあるまちづくりに資する事業に重点的な予算措置を行うこととします。

2 新しい時代に繋がる取り組みの効果的な活用と行財政改革の推進

新型コロナウイルス感染症の発生以降、行政を取り巻く環境は大きな変革を求められており、マイナンバーカードの活用で代表されるデジタルファーストの推進をはじめ、太陽光など再生可能エネルギーの導入によるゼロカーボンの実現に向けた取り組みなど、新しい時代に繋がるこれら施策について予算に反映していくほか、あらゆる面での効果的な利活用により、将来的なコストの削減を図っていくことが必要となります。

一方、現下の財政環境は、少子高齢化や人口減少による市税収入の減少、高齢化による社会保障費の増加のほか、原油価格・物価高騰の影響により、厳しさを増しており、今後についてもその傾向は続くことが予想されています。

このため、歳入の面では、市税において、税制や課税客体の把握及び収納率の向上に努めるほか、使用料や手数料といった受益者負担については、これまで進めてきた適正化に向けた検証を不断に行い、予算への反映を目指すことが重要となります。

また、国・道支出金については、根拠法令や制度を再精査し、可能な限り活用することを検討することはもちろん、市債についても、緊急防災・減災事業債や令和8年度まで期間が延長となった公共施設等適正管理推進債など

の有利な制度の積極的な活用など、歳入全般にわたり財源確保に最大限努める必要があります。

一方、歳出の面では、事業評価の仕組みを予算編成と有機的に連動させることで事務事業の必要性や効率性を常に検証し、経費縮減に取り組むことはもちろん、将来的な財政負担の軽減を見据えた公共施設の統廃合などの行財政改革について一層推進し予算に反映させることが必要となります。

予算編成にあたっては、これらの事項を踏まえて作業にあたるとともに、積算については引き続きゼロベースからの積上げ方式により行うこととします。

なお、予算総体については、全体のバランスや後年度の影響などにも十分配慮し、編成するものとします。

◎決算（普通会計）の状況

（単位：千円）

区分	歳入総額 ア	歳出総額 イ	差引額 ウ（ア－イ）	翌年度へ 繰越すべ き財源 エ	実質収支 オ（ウ－エ）	単年度 収支 カ
令和 2 年度	28,382,607	27,614,319	768,288	15,050	753,238	309,598
令和 3 年度	25,122,097	24,266,487	855,610	1,712	853,898	100,660

◎基金等の状況

（単位：千円）

基金等名	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	増減 B-A
財政調整基金	253,743	560,621	1,160,632	600,011
減債基金	80,980	66,344	222,637	156,293
備荒資金組合納付金	493,346	495,255	648,370	153,115
合計	828,069	1,122,220	2,031,639	909,419
特定目的基金	1,287,700	1,488,262	2,005,512	517,250

※各年度の年度末残高による。

◎特定目的基金のうち、ふるさとまちづくり応援基金の状況

（単位：千円）

区 分	令和2年度	令和3年度
市民活動の促進に関する事業	1,741	3,083
安全安心な市民生活の充実に関する事業	176,813	297,080
観光をはじめとする地域経済の振興に関する事業	35,059	37,219
子育て支援と保健福祉の充実に関する事業	59,073	79,589
環境保全と景観の形成に関する事業	18,263	22,798
教育の充実と文化・スポーツの振興に関する事業	7,914	11,574
市役所庁舎の新築、改築又は大規模改修に関する事業		
合計	298,863	451,343

※各年度の年度末残高による。

◎主要財政指標の推移

区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
経常収支比率	98.3%	97.4%	98.9%	97.5%	99.8%	91.2%
財政力指数	0.460	0.465	0.466	0.464	0.467	0.459
実質赤字比率	—	—	—	—	—	—
連結実質赤字比率	—	—	—	—	—	—
実質公債費比率	13.7%	12.7%	13.0%	12.6%	12.4%	11.4%
将来負担比率	108.1%	99.7%	94.7%	91.0%	81.8%	55.7%

※経常収支比率は、減収補てん債・臨時財政対策債を経常一般財源とした場合の数値

※財政力指数、実質公債費比率は3か年平均の数値

- 経常収支比率 経常一般財源のうち、経常経費に充当された割合を示すもので、財政構造の弾力性を測定する比率として使われます。
- 経常一般財源 毎年度連続して経常的に収入される財源のうち、その用途が特定されず自由に使用し得る収入をいいます。当市においては、市税と地方交付税で経常一般財源の8割から9割を占めています。
- 財政力指数 地方交付税の基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値をいいます。財政力指数は、1に近いあるいは1を超える（普通交付税の不交付団体）ほど、財源に余裕があることを示します。
- 実質赤字比率 一般会計等における実質赤字額の標準財政規模に対する比率であり、当市においては、一般会計と学校給食事業特別会計を合わせた赤字額の割合を示すものです。
- 連結実質赤字比率 全ての会計における実質赤字額の標準財政規模に対する比率であり、一般会計等のほか、国民健康保険特別会計や上・下水道事業会計などを含めた全ての会計の赤字額の割合を示すものです。
- 実質公債費比率 市債の元利償還金に下水道などの公営企業債の元利償還金に対する一般会計からの繰出金等を合算した額の標準財政規模に占める割合を示すものです。
- 将来負担比率 市税や普通交付税などの収入額に占める地方債残高や退職手当引当金など一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の割合を示すものです。